

山口県立 総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center



Contents

vol. **39**
2020.2

- 01 **特集**
チーム医療で迎える脳梗塞
- 02 地域医療連携ニュース
きららサロンが10周年を迎えました！
院長だより
- 03 部署だより 入退院支援センターによる
ベッドコントロールの開始
- 04 インフォメーション
ホルモンクリニックの名称変更
やまぐち医療最前線 放送予定
きららサロン・きららサロンミニ講座のご紹介
編集後記
- 05 院内ボランティアの紹介
- 06 看護部通信 地域がん診療連携拠点病院における
がん看護専門看護師の役割
- 別紙 外来診察担当医表

チーム医療で迎える脳梗塞

国内死因の第4位を占める脳血管疾患の死亡者数は年間約10万人～11万人であり、その約60%は脳梗塞によるものです。高齢化が進むにつれ、脳梗塞の患者数は、今後ますます増加すると予想されています。今号では、当院の脳梗塞に対する急性期治療についてご紹介します。



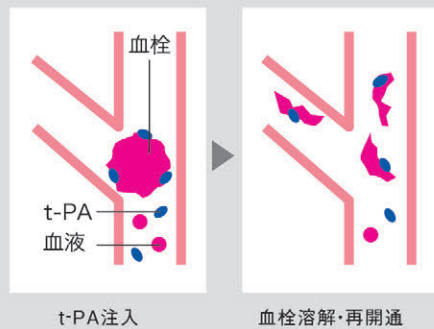
脳神経内科 / t-PA 静注療法

当院の t-PA 静注療法の 特徴



脳神経内科 診療部長
福迫 俊弘

防府市ではt-PA(血栓溶解薬)静注療法ができる唯一の施設であるため、救急隊は脳梗塞が疑われる患者さんを迷わず当院へ搬送します。受け入れ先を探す時間的な遅れが少なく搬送されるため、t-PA静注療法の施行率が高くなっています。また、スタッフ全員がすべきことを理解して、各々分担して行動することで、1秒でも早く治療を開始できるようにしています。救急医は全身状態の評価を速やかに行い、連絡を受けた放射線部はCT室を空け、すぐに撮影できるようにしています。



脳神経内科・脳神経外科の枠を超えて

症状からだけでは脳出血と脳梗塞の区別は難しく、時間的制約の大きいt-PA静注療法を念頭において初動することが重要です。平日の日中は、初期対応を救急医とともに脳神経内科医が対応し、脳梗塞の場合はt-PA静注療法の適応を判断して速やかに行えるようにしています。CTで脳出血や、t-PAが使えない脳梗塞と判断した場合は、脳神経外科へ連絡して対応してもらっています。夜間、休日においては、どちらかの科の医師が迅速に対応する待機体制を整えています。



当院が一次脳卒中センターとして認定されました

このたび一般社団法人日本脳卒中学会より、当院が「一次脳卒中センター」として認定されました。一次脳卒中センターは、「地域の医療機関や救急隊からの要請に対して、24時間365日脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療担当医師が、患者搬入後可及的速やかに診療(t-PA静注療法を含む)を開始できる施設」と定義されています。

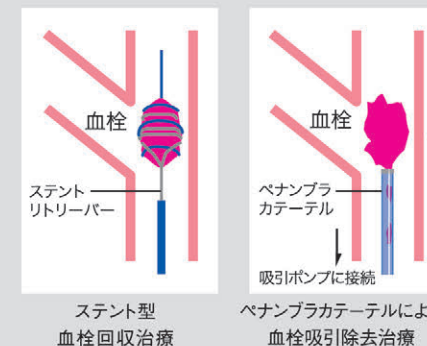
脳神経外科 / 脳血管内治療

患者さんに最適な治療を



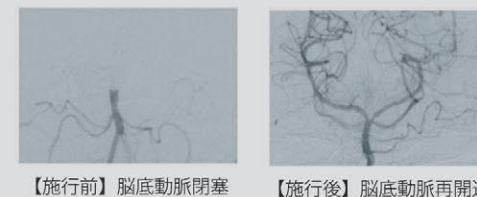
脳神経外科 部長
浦川 学

脳梗塞の治療は、t-PA静注療法が第一選択ですが、脳梗塞発症後4時間30分以内に投与を開始しなければならないなどの時間的な制約や、頭蓋内出血や3か月以内の頭部脊髄外傷の既往がある場合は使用できないなどの禁忌があります。このようなt-PAが使えない患者さんの脳梗塞の治療手段として、カテーテルを用い血栓を回収する血管内治療があります。

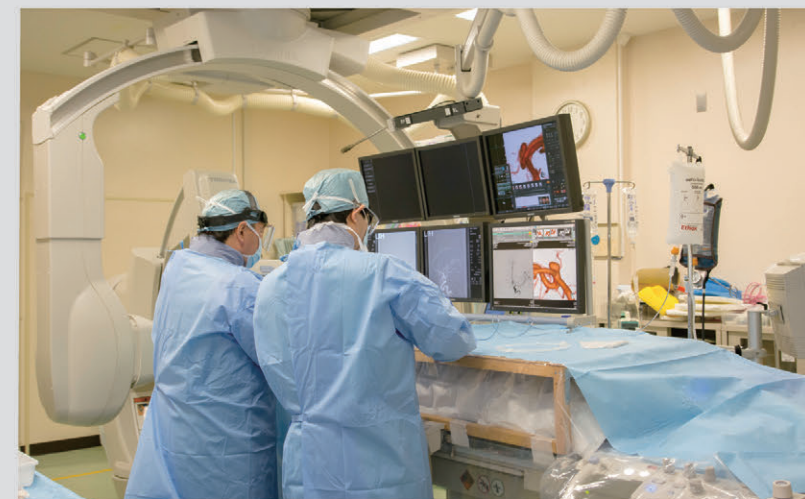


症例紹介 | 入院待機中に急変 ▶ 血栓回収療法を施行

60歳代男性が自転車走行中に転倒、頭から地面に衝突し、救急車で当院救急部へ搬送されました。検査の結果、頸椎骨折、中心性頸髄損傷と診断され、一般病棟へ入院するため待機していましたが、急に意識レベルが低下し、四肢麻痺を生じました。頭部CT・MRIを施行すると脳底動脈という生命に関わる重要な血管が閉塞していました。外傷直後でありt-PAは禁忌です。緊急で右大腿動脈よりカテーテルを脳底動脈まで進め、ペナンプラという血栓を吸引するデバイスを使用し、血栓回収療法を施行しました。患者さんは無事意識が回復し、その後リハビリテーションを開始しました。救急医、脳神経内科医、脳神経外科医がそれぞれの役割を果たした一例です。



【施行前】脳底動脈閉塞 【施行後】脳底動脈再開通



Message メッセージ

虚血に陥ると1分間に190万個の神経細胞が死んでいきます。1秒でも早く治療すべき意義はまさにそこにあります。一晩様子を見て…ではなく、症状が出たら遅滞なく当院を受診するよう患者さんへご指導ください。



部署だより From the department

入退院支援センターによる ベッドコントロールの開始

入退院支援センター 真子 典子

入退院支援センターは、2014年9月1日に開設され、今年で6年目になります。入院が必要な患者さん一人ひとりの身体的・社会的・心理的状況を早期に把握し、多職種と情報共有し、連携を図ることにより、安心して入院治療が受けられるように支援しています。

2019年4月1日、入退院支援センターに病床管理責任者(ベッドコントローラー)が配置され、病院全体の病床を効率的・効果的に管理するためのベッドコントロールを開始しました。予定入院・緊急入院患者が速やかに入院でき、安心・安全な環境で良質な医療が受けられるよう入院ベッドの調整を行っています。ベッドコントロールは、医師・病棟師長・医事課・退院調整部門担当者と協力し、各病棟の病床稼働の均衡化や、目標とする病床利用率の維持等に留意しながら調整をしています。

ベッドコントローラーは、午前中に病棟ラウンドを行い、各病棟の予定入院、及び緊急入院患者の受け入れベッド状況を把握し、新たな緊急入院に備えます。また、退院調整

が円滑に進んでいるかを確認し、地域医療連携室の担当者と情報共有をしています。午後は、病棟師長・退院調整部門担当者などが参加するミーティングで夜間の急患対応や翌日の入院ベッドの調整を行っています。

これからも多職種が協力して、患者・家族、及び地域医療機関の満足度・信頼度の向上を目指して、適切なベッドコントロールを実践していきます。



院内ボランティアの紹介



山口県立総合医療センターでは約30名の方がボランティアとして病院運営に参加してくださっています。ボランティア活動の内容は様々で、受診手続きの案内、おしぼり作り、園芸活動、きららサロンなど多岐にわたります。今号では、月に1回開催される院内コンサートの運営に長年携わられている向山雅さんに、当院の印象やコンサートにかける思いなどをお聞きしました。



身近な存在

防府市に住んでいるので、山口県立総合医療センターはすごく身近な存在です。もちろん移転する前の病院も知っていますし、こちらで勤務していた同級生もいます。以前勤務されていた先生にギターを教えたこともありますし、私自身ここに入院したこともあります。妻もお世話になりました。県立の病院がここにあるというのはこの街にとっても非常に良いことです。このように繋がりが多い病院のために、大好きな音楽を通じて関わることが私の楽しみにもなっています。

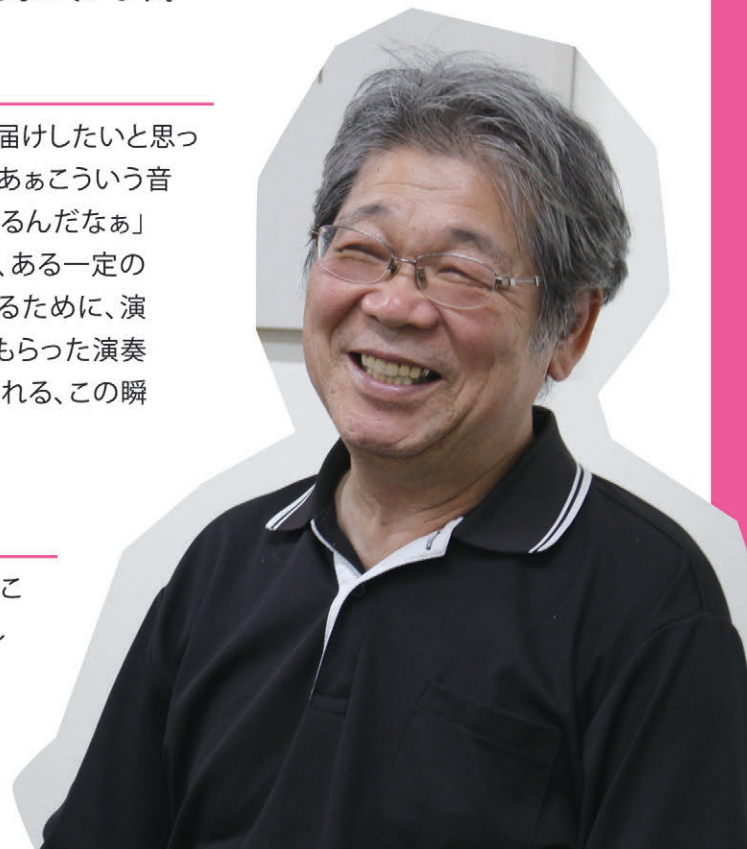


心地よい音楽を患者さんへ

患者さんの不安な気持ちが少しでも晴れるような音楽をお届けしたいと思っています。約8年間、様々なジャンルを試してきましたが、「ああこういう音はうさがられるんだなあ」とか、「こうすれば喜んでもらえるんだなあ」という感覚は掴めています。演奏者に依頼をかけるときも、ある一定の“基準”を設けており、みなさんに心地よい音楽をお届けするために、演奏者は誰でもOKというわけにはいきません。こうして来てもらった演奏者の音楽を、病院に来られた方がふと足を止めて聴いてくれる、この瞬間が一番うれしいですね。

継続は力なり

長い間この活動を続けていると、批判的な意見をいただくことが過去2回ありました。まあ、いろんな方がいますから厳しいことを言う方もいますよね。でも、8年間でこの2回だけなので優秀な方じゃないかと思っています。演奏者の調整がつかないなど辛いこともありますが、楽しみにしてくれている患者さんのため、この街のためにできる限り長く続けていきたいと思っています。



向山 雅さん

看護部

Nursing department communication

通信+

地域がん診療 連携拠点病院における がん看護専門看護師の役割

がん看護専門看護師 内田 恵

山口県立総合医療センターは、2004年に「地域がん診療連携拠点病院」に指定されました。「地域がん診療連携拠点病院」は、がん患者さんと地域のみなさまに対する、質の高いがん医療を提供していく役割を担っています。その役割の中でがん看護専門看護師は、患者さんが納得した上で治療及び療養生活が選択できるよう、相談支援や情報提供を行っていく役割があります。そして、患者さんの代弁者の役割も担っています。

当院でがん看護専門看護師の認定資格を取得し、活動をするようになってから1年が経ちます。専門看護師には、主に「実践」「調整」「相談」「倫理調整」「教育」「研究」の6つの役割を果たすことが求められています。患者さんを中心として、多角的に全体を捉える視点を持ち、その臨床の現場で生じている苦悩や葛藤の背景を分析し、患者さんとそのご家族にとっての最善とは何かを多職種と協働しながら考えていく必要があります。

私は、患者さんやご家族が現状をありのまま表現できるような関わりを心がけています。その中で患者さんやご家族は「どうしたらよいかわからない」と語られることがよくあります。この漠然とした短い語りの中に患者さんやご家族の苦悩が表れていると思います。今後も、短い語りの中にある苦悩や葛藤を見逃さず、患者さんとそのご家族、共に関わっている医療従事者との繋がりを大切にしながら活動していきたいと思っています。



地域医療連携ニュース

きららサロンが10周年を迎えました!

2009年9月、がん患者サロンとして【きららサロン】がスタートしました。毎週火曜日と金曜日の10時30分から15時までボランティアスタッフ2~3名が、情報検索のお手伝いや、がん患者さんやご家族のお話を伺うなどの活動を行っています。年間400~500名の方の利用があり、延べ利用者数は4,375名になりました。

そのきららサロンも10周年を迎え、ボランティアスタッフの方のご尽力に感謝する交流会を先日開催しました。10年間の歴史を振り返るとともに、今後のきららサロンを考えていくきっかけとして、実りのある交流会となりました。また、10周年を記念して、きららサロンに携わる多くの関係者の想いの詰まった記念誌を作成しました。今後も、ひとりでも多くの方にきららサロンを知っていただけるよう、より一層努力していきたいと思っています。



きららサロン

日時 / 毎週火・金曜日 10:30~15:00
場所 / 当院外来棟2階 会議室前コーナー



院長だより

今年の子の年で、東京オリンピック・パラリンピック開催年でもあります。世界に真の平和が到来することを願います。院内の動きをみると、3月末には心血管カテーテル治療室の改築工事が終わり、4月から1年間をかけてリニアック棟の改築工事が始まります。高度急性期医療及びがん診療のレベルアップに努め、県民のみなさまの健康増進により一層の貢献ができるよう、職員一同精進していきます。



武藤 正彦



Information

ホルモンクリニックの名称変更

2019年10月1日から、「ホルモンクリニック」の名称を「生殖医療科」へ変更しました。今回の名称変更に伴う診療内容や体制についての変更はありません。ご不明な点がございましたら、地域医療連携室までお問合せください。

お問い合わせ先： 地域医療連携室 TEL 0835-22-5145(平日 8:30~17:15)



やまぐち医療最前線 (tys テレビ山口)

| 放送日時 | 放送内容 | 出演 |
|----------------------|----------------------|-----------------|
| 3月 7日(土) 18:55~19:00 | ほくろ癌(メラノーマ)に対する新しい治療 | 皮膚科 山田 隆弘 医師 |
| 3月11日(水) 16:50~16:56 | | |

◎きららサロン

がん患者さん、ご家族のためのサロンです。ボランティアスタッフが色々な話をお聞ぎします。書籍やインターネットでがんに関する情報を集めることもできます。当院に通院中でなくても利用可能ですのでお気軽に足を運んでください。

日時：毎週火・金曜日 10:30~15:00

場所：当院外来棟2階 会議室前コーナー

◎きららサロンミニ講座

がんと向き合う日々のためのミニ講座

テーマ

「緩和ケアについて話し合おう」

講師 / 緩和ケア認定看護師 小川 佐知子
がん看護専門看護師 山本 知美

日時：3月10日(火) 13:00~

場所：当院外来棟2階 第1会議室

○編集後記

約9か月前はあんなに違和感のあった『令和』ですが、当たり前のように令和2年を迎えました。人の適応能力の高さに感心すると同時に“慣れ”というものの怖さを感じます。広報を担当するようになってから2年が経過しようとしています。ここで一度“慣れ”てしまっていることはないか確認しておきたいと思います。(企画調整室H.A)



【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する



山口県立総合医療センター

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210 URL <https://www.ymgph.jp/>